



豊後大野市の活性化を目指し、地元商店主(右端)と意見交換する日本文理大の学生

地域活性化に新たな視点

文理大生とまちづくり 豊後大野

【豊後大野】地域の独自性や特徴を生かしたまちづくりを手伝おうと、日本文理大工学部の2年生が18日、豊後大野市三重町で地元商店主らと意見交換した。授業の一環。住民から現状や課題を聞き、来年1月に解決に向けたアイデアなどを提言する予定。

市役所であった意見交換会には、学生24人と住民4人が参加した。学生は「自然にあふれている」と豊後

大野の魅力を語る一方、「シャッターを閉めた店が目立つ」などと指摘。地域活性化につながる方策を一緒に考えた。

同市にほとんど来たことがないという大分市出身の河野将太郎さん(20)は「若者中心の発想だけでなく、いろいろな視点から物事を考える大切さを学んだ。多くの方が訪れてくれる面白い提案をしたい」と話した。

(山田志朗)